



## 日本とデジタルディバイドの現状

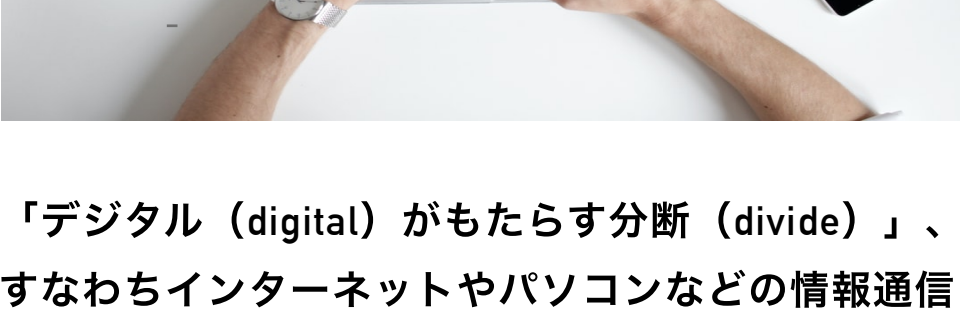
年収1000万円以上の利用率が94.5%であるのに対し、年収200万円未満の層は80.7%とされている。

## 情報弱者に及ぼす影響

デジタルディバイドによって、ICT技術を利用できていない人々を「情報弱者」と呼ぶことがある。

# デジタルディバイドとは

Digital Divide



「デジタル（digital）がもたらす分断（divide）」、すなわちインターネットやパソコンなどの情報通信技術（ICT）を利用できる人とそうでない人の間にもたらされる「情報格差」のこと。

## 3分でわかる!コロナ禍での情報格差社会とは



## デジタルディバイド身近な例



貧富の格差



人材・技術の流出



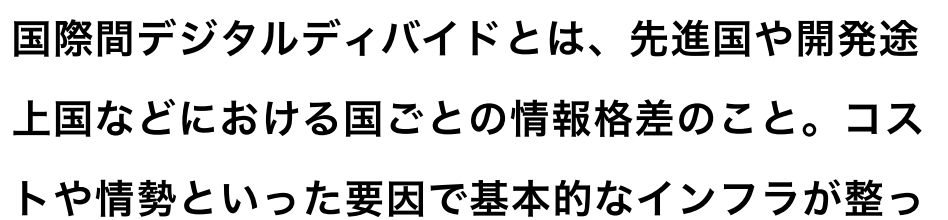
高齢者世代の孤立化



年齢による情報格差

## デジタルディバイド種類と背景

### 国際間デジタルディバイド



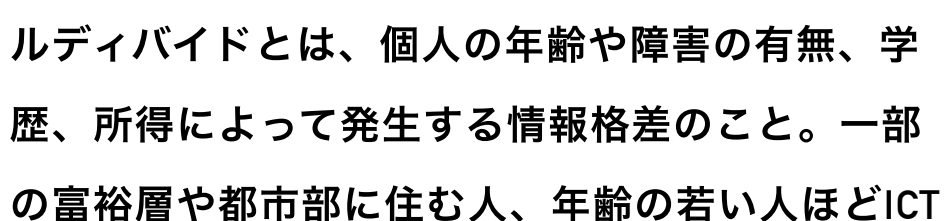
国際間デジタルディバイドとは、先進国や開発途上国などにおける国ごとの情報格差のこと。コストや情勢といった要因で基本的なインフラが整っていない開発途上国では、技術発展が進んでいる先進国と比べて、デジタル媒体やインターネットの普及、情報リテラシーの教育、IT人材の確保といったさまざまな面で遅れが生じてしまっている。

### 地域間デジタルディバイド



地域間デジタルディバイドとは、国内の都市部と地方部といった地域ごとの情報格差のこと。とくに過疎化している地域では、電話回線やインターネット通信などのICTインフラが充実していない傾向にあり、インフラが整っている都市部との情報格差が生まれている。

### 個人・集団間デジタルディバイド



個人間デジタルディバイド、または集団間デジタルディバイドとは、個人の年齢や障害の有無、学歴、所得によって発生する情報格差のこと。一部の富裕層や都市部に住む人、年齢の若い人ほどICTリテラシーが高い傾向にあり、これにより情報格差が生まれている。